

FUJIFILM

Value from Innovation

富士フイルムホールディングス株式会社

2025年3月期第2四半期決算説明会

2024年11月7日

イベント概要

[企業名]	富士フイルムホールディングス株式会社
[企業 ID]	4901
[イベント言語]	JPN
[イベント種類]	決算説明会
[イベント名]	2025 年 3 月期第 2 四半期決算説明会
[決算期]	2025 年 3 月期 第 2 四半期
[日程]	2024 年 11 月 7 日
[時間]	15:10 – 16:05 (合計：55 分、登壇：24 分、質疑応答：31 分)
[登壇者]	6 名 代表取締役社長・CEO 後藤 禎一 (以下、後藤) 取締役・CFO 樋口 昌之 (以下、樋口) 取締役/富士フイルムビジネスイノベーション株式会社 代表取締役社長・CEO 浜 直樹 (以下、浜) 取締役執行役員 コーポレートコミュニケーション部長 兼 ESG 推進部長 吉澤 ちさと (以下、吉澤) 富士フイルム株式会社 取締役執行役員 エレクトロニクス戦略本部副本部長 兼 エレクトロニクスマテリアルズ事業部長 岩崎 哲也 (以下、岩崎) 富士フイルム株式会社 取締役執行役員 ライフサイエンス戦略本部長 兼 バイオ CDMO 事業部長 飯田 年久 (以下、飯田)

2025年3月期 第2四半期

1 | **決算ハイライト及びトピックス**
富士フイルムホールディングス株式会社 代表取締役社長・CEO **後藤禎一**

2 | **連結業績及び事業概況**
富士フイルムホールディングス株式会社 取締役・CFO **樋口昌之**

2025年3月期

3 | **連結業績予想**
富士フイルムホールディングス株式会社 取締役・CFO **樋口昌之**

本日の説明会の流れは、まず初めに後藤より、決算ハイライトおよびトピックスを説明いたします。続いて樋口より、連結業績および事業概況と、2025年3月期の連結業績予想を説明します。その後質疑応答を行います。

それでは後藤より説明いたします。

2025年3月期 第2四半期 決算ハイライト

2025年3月期 第2四半期(7~9月期)連結業績

(為替レート: 2Q 米ドル=149円 | 対前年 +4円, ユーロ=164円 | 対前年 +7円)

過去最高	売上高	過去最高	営業利益	当社株主帰属 四半期純利益
	7,657 億円		734 億円	496 億円
対前年	(↑ +5.2%)	対前年	(↑ +0.1%)	(↓ -16.2%)

- 売上高は、エレクトロニクス、イメージングの販売好調や為替影響等により過去最高を更新
- 営業利益は、販売好調なエレクトロニクス、イメージングが増益となり、一時費用増加等で減益となったヘルスケアや、複合機の主要欧米OEM顧客の在庫調整等により減益となったビジネスイノベーションをカバー、為替影響も寄与し過去最高を更新
- 当社株主帰属四半期純利益は、為替差損や投資有価証券評価損等、営業外費用の増加が影響し減益

2025年3月期 上期(4~9月期)連結業績

(為替レート: 上期 米ドル=152円 | 対前年 +10円, ユーロ=166円 | 対前年 +13円)

過去最高	売上高	過去最高	営業利益	当社株主帰属 四半期純利益
	15,147 億円		1,356 億円	1,103 億円
対前年	(↑ +9.1%)	対前年	(↑ +8.0%)	(↓ -2.9%)

- 上期累計についても、売上高、営業利益が、それぞれ過去最高を更新
- 売上高は、エレクトロニクス、イメージングの販売好調や為替影響等により増収
- 営業利益は、エレクトロニクス、イメージングが増益となり、一時費用増加等で減益となったヘルスケアをカバー、為替影響も寄与し増益

FUJIFILM Holdings Corporation 4

後藤：後藤です。まず私から、富士フイルムホールディングスの2025年3月期第2四半期連結決算の概要をご説明いたします。

第2四半期の売上高は7,657億円、営業利益は734億円と、それぞれ四半期業績の過去最高を更新しました。

売上高は、エレクトロニクス、イメージングの販売好調や為替影響もあり、増収となりました。

営業利益は、販売好調な半導体材料が牽引したエレクトロニクス、イメージングが、一時費用増加などにより減益となったヘルスケアや、複合機の主要欧米OEM顧客の在庫調整等により減益となったビジネスイノベーションをカバーし、為替影響なども寄与し、増益となりました。

一方、当社株主帰属四半期純利益は、為替差損や投資有価証券評価損など、営業外費用の増加が影響し、前年に対して減益の496億円となりました。

上期につきましても、売上高、営業利益ともに、それぞれ上期6カ月業績の過去最高を更新しました。

2025年3月期 第2四半期 決算ハイライト

2025年3月期 通期連結業績予想

(為替レート： 通期 米ドル=149円, ユーロ=163円)

過去最高
売上高
31,500 億円

過去最高
営業利益
3,150 億円

過去最高
当社株主帰属
当期純利益
2,500 億円

ポイント

- › 前回予想(8/7公表値)を**据え置き**
 - › 売上高、営業利益、当社株主帰属当期純利益ともに**過去最高更新**を目指す
 - › 年間配当は、**15期連続増配**となる60円/株を予定
-
- › **事業拡大に向けた成長領域の取り組みを推進** (→) **決算トピックス**
 - バイオCDMO | デンマーク拠点における新規大型プラントの稼働開始
 - 半導体材料 | 先端半導体材料の開発・生産強化のための設備投資

FUJIFILM Holdings Corporation 5

2025年3月期の通期連結業績予想は、上期の業績や今後の事業状況を踏まえ、一部事業で見直しを行いますが、全体では据え置き、売上高、営業利益、当社株主帰属当期純利益いずれも過去最高更新を目指します。

2025年3月期の年間配当は、前回お伝えしましたとおり、15期連続増配となる60円を予定します。

また中期経営計画 VISION2030 の目標を見据え、中計初年度にあたる今年度も、バイオ CDMO や半導体材料を中心とする成長領域での取り組みをさらに加速してまいります。この両事業の直近の取り組みについて、次の決算トピックスで紹介いたします。

2025年3月期 第2四半期 決算トピックス 1/3

バイオCDMO

デンマーク拠点の新規大型プラント(第1次投資)が、11月第1週より稼働開始
高い生産性と各種認証取得実績を有する既存プラントのトラックレコードをベースに、新規プラントを各拠点に展開

大型タンク(2万ℓ)の展開スケジュール



まず一つ目はバイオ CDMO についてです。

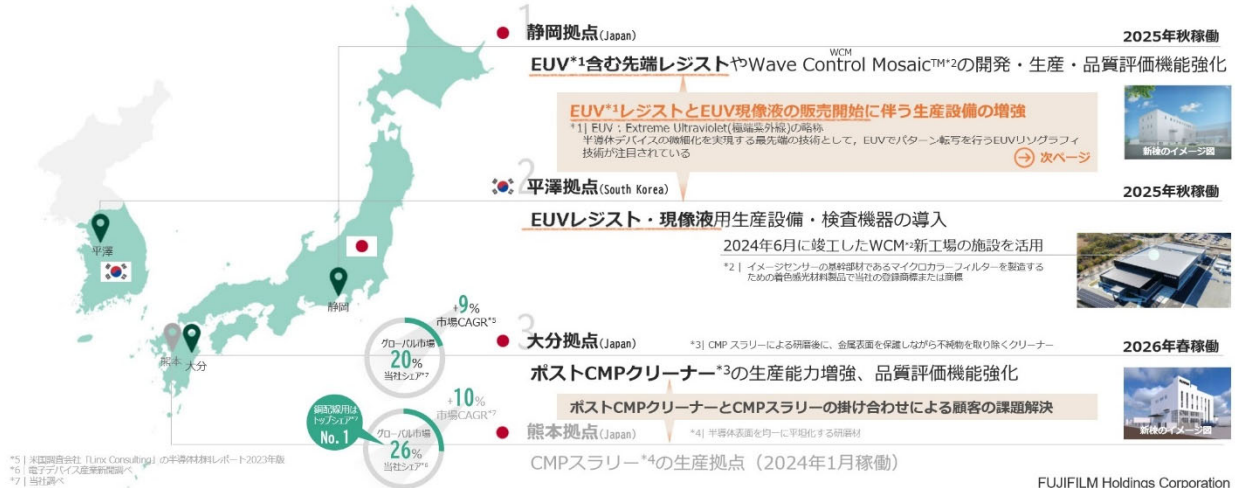
建設を進めておりましたデンマーク拠点の新規大型プラントについて、11月第1週より稼働を開始しました。新プラントでは既に9つの新規プログラムを受託しており、今後試作・製造を順次進めていきます。

今回、新たに稼働するプラントの設備・設計は、デンマーク拠点の既存プラントをベースにしています。既存プラントは、高い生産性と各種認証取得実績を有しており、今年度は、上期として過去最高の売上を記録しました。当プラントのトラックレコードをもって、デンマーク拠点の新規プラント、および Johnson&Johnson グループの Janssen Supply Group と長期大型契約を締結している、米国ノースカロライナ拠点の新工場など、各拠点に共通の設計・設備をクローン方式で展開します。これにより、速やかなプラント立上げを進めるとともに、欧米両拠点に標準化された製造体制を整備することで、高品質のバイオ医薬品をグローバルで安定供給していきます。

2025年3月期 第2四半期 決算トピックス 2/3

半導体材料

半導体材料事業をさらに拡大するため、日本および韓国の開発・生産拠点に総額200億円以上を投資し
先端半導体材料の開発・生産・品質評価などの設備を増強する



二つ目は、半導体材料の成長投資についてです。

当社は、旺盛な半導体の需要と、急速に進む高性能化にこたえるため、今般、日本の静岡と大分、韓国の平澤の3拠点において、先端半導体材料の生産・開発強化のための総額200億円以上の投資を決定いたしました。

静岡拠点においては、EUVレジストをはじめとする先端レジストや、Wave Control Mosaicの開発・生産・品質評価機能の強化のため、新棟を建設し、新たなクリーンルームに最新鋭の検査装置を導入します。またこの静岡拠点に加え、6月に竣工した韓国・平澤拠点に新たにこのたび販売を開始したEUVレジストおよびEUV現像液の生産・品質評価の設備を増強します。当社のEUVレジスト・現像液については、後ほどご説明いたします。

このほか、ポストCMPクリーナーの生産拠点である大分拠点においても、新棟を建設し、同拠点の生産能力を約4割増強します。半導体表面を均一に平坦化する工程で使用されるポストCMPクリーナーは、年率約9%の市場成長が見込まれ、この能力増強により、ポストCMPクリーナーの安定・迅速供給を実現し、さらなるビジネス拡大を図っていきます。また、当社のCMPスラリーと組み合わせて提案できる強みを活かして、お客さまが抱える課題を解決し、半導体のさらなる性能向上に寄与していきます。

2025年3月期 第2四半期 決算トピックス 3/3

半導体材料

当社開発のネガ型現像工程のNTIプロセス*1に対応するネガ型EUVレジスト・EUV現像液を 組み合わせて提供し、半導体のさらなる微細化に貢献

*1 NTIプロセス(Negative Tone Imaging プロセス)

当社が世界で初めて開発・実用化に成功したネガ型レジストの現像工程で現在広く普及しているプロセス

ネガ型(NTI)プロセスのEUVレジストとEUV現像液の販売開始



²⁾ | 富士キメラ総研「2023 先進/注目半導体露光市場の現状と将来展望」
³⁾ | 当社調べ

FUJIFILM Holdings Corporation 8

EUV レジスト、および EUV 現像液についてお話しします。

半導体の高性能化に必要な半導体回路の微細化を実現する技術として、EUV 露光技術が注目されており、今後、EUV レジストの市場は、年率約 2 割で成長すると予測されています。

その中で、より高精細で微細な回路パターンの形成が実現可能なメリットを持つ、ネガ型現像プロセスの普及が進み、EUV プロセスに占めるネガ型の割合が現在の 1 割から、2030 年には 3 割に達すると予想しています。

こうした市場の動向に対して、当社はこのたび、当社が世界で初めて開発・実用化に成功し、ネガ型現像工程として広く普及している NTI プロセスに対応する、ネガ型 EUV レジストと EUV 現像液の販売を開始しました。ネガ型現像工程において、NTI プロセスにより ArF 露光に用いた半導体の微細化をリードしてきた当社が、EUV 向けに進化させた NTI プロセスに対応する両材料を組み合わせることで、半導体のさらなる微細化に貢献します。

EUV レジストと現像液の発売により拡充した、最先端から成熟ノードまで、半導体製造プロセスのほぼ全域をカバーする豊富な製品ラインアップに加え、日米欧アジアの主要国に製造拠点を有す

る安定供給体制や、高い研究開発力を活かしたワンストップソリューションの提供により、お客さまの課題解決に取り組み、当社半導体材料事業の成長を加速させます。

私からの説明は以上です。

司会：続きまして樋口より説明いたします。

決算ハイライト	2025年3月期 第2四半期	全社	セグメント別	BS	CF	2025年3月期予想	参考資料
---------	-------------------	----	--------	----	----	------------	------

2025年3月期 第2四半期 業績

	2Q					上期				
	2024年3月期	2025年3月期	対前年度	為替影響	為替影響除く	2024年3月期	2025年3月期	対前年度	為替影響	為替影響除く
売上高	7,277 100.0%	7,657 100.0%	380 +5.2%	138	242 +3.3%	13,885 100.0%	15,147 100.0%	1,263 +9.1%	651	612 +4.4%
営業利益	733 10.1%	734 9.6%	1 +0.1%	37	-36 -4.9%	1,255 9.0%	1,356 9.0%	101 +8.0%	169	-69 -5.5%
税金等調整前四半期純利益	828 11.4%	686 9.0%	-141 -17.1%	-44	-97 -11.8%	1,521 11.0%	1,404 9.3%	-117 -7.7%	113	-230 -15.1%
当社株主帰属四半期純利益	591 8.1%	496 6.5%	-96 -16.2%	-30	-66 -11.1%	1,136 8.2%	1,103 7.3%	-33 -2.9%	78	-111 -9.8%
EPS	49.14円	41.17円	-7.97円	<その他の増減要因 (対前年度)> 営業利益における 為替利益の影響 - 7億円 (半導体等の部材価格は含まず)		94.36円	91.61円	-2.75円	<その他の増減要因 (対前年度)> 営業利益における 原材料価格の影響 - 63億円 (半導体等の部材価格は含まず)	
為替 ：米ドル	145円	149円	4円安			142円	152円	10円安		
：ユーロ	157円	164円	7円安			153円	166円	13円安		

FUJIFILM Holdings Corporation 10

樋口：私より連結業績および事業概況についてご説明いたします。

2025年3月期第2四半期の業績です。

売上高につきましては、イメージングや半導体材料などの販売好調や、為替の円安影響などにより、前年比5.2%増の7,657億円となりました。

営業利益は、イメージングやエレクトロニクスの増益が、前年同期に医薬品事業で計上した一時収益の反動や、一時費用等により減益となったヘルスケアをカバーし、為替の円安影響も寄与し、前年比0.1%増の734億円となりました。

当社株主帰属四半期純利益は、為替差損の計上や投資有価証券評価損など、営業外費用の増加により、前年比16.2%減の496億円となりました。

2025年3月期 第2四半期

セグメント別 連結売上高 | 営業利益

(単位：億円)

売上高	2Q					上期						
	2024年 3月期	2025年 3月期	対前年度		為替影響除く	2024年 3月期	2025年 3月期	対前年度		為替影響除く		
ヘルスケア	2,414	2,429	15	+0.6%	-36	-1.5%	4,482	4,720	238	+5.3%	8	+0.2%
エレクトロニクス	827	1,087	260	+31.4%	241	+29.2%	1,618	2,178	560	+34.6%	464	+28.7%
ビジネスイノベーション	2,897	2,877	-20	-0.7%	-61	-2.1%	5,593	5,677	84	+1.5%	-98	-1.8%
イメージング	1,139	1,265	126	+11.0%	98	+8.6%	2,192	2,572	380	+17.4%	238	+10.8%
合計	7,277	7,657	380	+5.2%	242	+3.3%	13,885	15,147	1,263	+9.1%	612	+4.4%

営業利益	2Q					上期						
	2024年 3月期	2025年 3月期	対前年度		為替影響除く	2024年 3月期	2025年 3月期	対前年度		為替影響除く		
ヘルスケア	315	188	-127	-40.3%	-138	-44.0%	418	222	-196	-46.9%	-243	-58.2%
エレクトロニクス	101	195	95	+94.2%	89	+88.1%	198	396	198	+99.9%	167	+84.5%
ビジネスイノベーション	153	108	-45	-29.3%	-47	-30.7%	319	253	-66	-20.8%	-88	-27.7%
イメージング	261	337	76	+29.2%	59	+22.5%	495	662	167	+33.8%	96	+19.5%
全社/連結調整	-96	-94	2		2		-175	-177	-2		-1	
合計	733	734	1	+0.1%	-36	-4.9%	1,255	1,356	101	+8.0%	-69	-5.5%

* グラフィックコミュニケーション事業を「エレクトロニクス(旧マテリアルズ)」セグメントから「ビジネスイノベーション」セグメントに組み替えて表示しています。また、それに伴いセグメント単位での一体運営が進んだ状態を鑑み、各セグメントの売上高及び営業利益をセグメント間取引消去後の金額に変更しております。本区分変更に合わせて、2024年3月期の情報をリステートしています。

FUJIFILM Holdings Corporation 11

セグメント別の売上高・営業利益はご覧のとおりです。

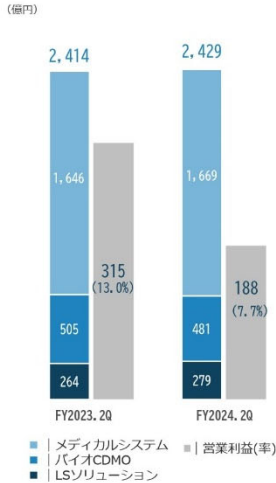
ヘルスケアは、販売が堅調だったメディカルシステムやライフサイエンスが寄与し、増収となりましたが、前年同期に医薬品事業で計上した一時収益の反動や、第1四半期から続くバイオ CDMO の一時費用などが影響し減益となりました。

エレクトロニクスは、先端向けが牽引する半導体市況の回復や、昨年10月に買収完了した半導体用プロセスケミカルの販売が寄与し、増収増益となりました。

2025年3月期 第2四半期(2024年7月～2024年9月)
セグメント別概況：ヘルスケア

対前年比
売上高 ↑+0.6%
営業利益 ↓-40.3%

売上高は、**メディカルシステム、LSソリューション**において増収。営業利益は、**バイオCDMOのテキサス拠点における商用製造拡大に向けた体制強化費用の計上や、LSソリューション（医薬品事業）の前期に計上した一時収益の反動による影響等を受け減益**



メディカルシステム 売上高 **1,669** 億円 (対前年 **+1.4**%)

- 日本・米国・欧州・中国の主要市場に加え、東南アジアでも販売伸長した内視鏡や、体外診断(IVD)分野での販売が好調に推移し、増収

バイオCDMO *収益性：27ページ参照 売上高 **481** 億円 (対前年 **-4.7**%)

- 大型製造設備は、抗体医薬品の製造受託がデンマーク拠点で堅調に推移し、増収
- 中小型製造設備は、第1四半期に引き続き、米テキサス拠点における商用製造拡大に向けた、レギュラトリー対応力向上を目的とした品質保証システム強化や、安定生産実現のためのシステムアップグレード等対応に伴う稼働調整を実施したこと等により、減収

LSソリューション 売上高 **279** 億円 (対前年 **+5.8**%)

- ライフサイエンスは、コロナ禍から継続していた培地の顧客在庫調整の改善が進み、受注が徐々に回復。また、細胞治療ライセンス案件のマイルストーン達成に伴う一時収入計上等により、増収
- コンシューマーヘルスケアは、サプリメント需要の低調等により、減収

ヘルスケアの業績概要です。

メディカルシステム、ライフサイエンスソリューションにおいて増収を確保したことにより、売上高は、前年比0.6%増の2,429億円。営業利益は、バイオCDMOで第1四半期から引き続き、米国テキサス拠点の商用製造拡大に向けた体制整備費用などの計上や、前年に医薬品事業で計上した一時収益の反動などにより、前年比40.3%減の188億円となりました。

メディカルシステムは、内視鏡や体外診断分野での販売が好調に推移し、売上が増加しました。内視鏡は、日本・米国・欧州・中国をはじめとする主要市場に加え、東南アジアでも販売が伸長しました。

バイオCDMOは、デンマーク拠点の大型製造設備における抗体医薬品の製造受託は、引き続き堅調に推移いたしました。一方中小型製造設備では、米国テキサス拠点における、商用品の製造受託拡大に向けた、レギュラトリー対応力向上のための品質保証システム強化や、システムアップグレードなどの対応に伴う稼働調整を実施したことなどにより、減収となりました。

LSソリューションは、ライフサイエンスにおいて、コロナ禍から継続していた培地の顧客在庫調整の改善が進み、受注回復が徐々に進んだことに加え、細胞治療ライセンス案件のマイルストーン

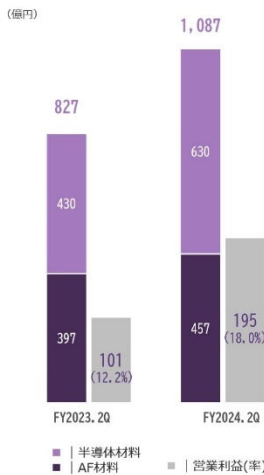
達成に伴う一時収入を計上したことも寄与し、増収となりました。一方でコンシューマーヘルスケアは、サプリメント需要の低調が継続したことなどにより、減収となりました。

2025年3月期 第2四半期(2024年7月~2024年9月)

セグメント別概況：エレクトロニクス

対前年比
売上高 ↑+31.4%
営業利益 ↑+94.2%

売上高は、半導体材料の市況回復や買収した半導体用プロセスケミカルの販売寄与に加え、AF材料におけるOLED向け材料の販売好調により増収。営業利益は、増収に伴い大幅増益



半導体材料 売上高 630 億円 (対前年 +46.7%)

- 先端向けがけん引する半導体市場の市況回復に加え、2023年10月に米国Entegris社から買収を完了した半導体用プロセスケミカルの販売が寄与し、売上は大幅に増加
- NTIプロセスに対応するネガ型EUVレジストとEUV現像液の販売を開始。EUVを含む先端半導体材料の開発・生産強化のため、国内外拠点に総額200億円以上を新たに投資し、半導体材料事業の成長を加速
*決算トピックス参照
- 国際展示会“SEMICON India 2024”において、多様な製品ラインアップを活かしたワンストップソリューションの強みを訴求

AF材料* 売上高 457 億円 (対前年 +14.9%)

- OLED向け反射防止材料等の受注が好調で、増収
- ファインケミカルは、試薬および市況回復傾向の重合材料等が販売好調で、増収

* ディスプレイ材料、その他エレクトロニクス材料を「AF材料」へ統合して表示しています。
* グラフィックコミュニケーション事業を「エレクトロニクス(旧マテリアルズ)」セグメントから「ビジネスイノベーション」セグメントに組み替えて表示しています。本区分変更にあわせ、2024年3月期の情報をリセットしています。

次にエレクトロニクスです。

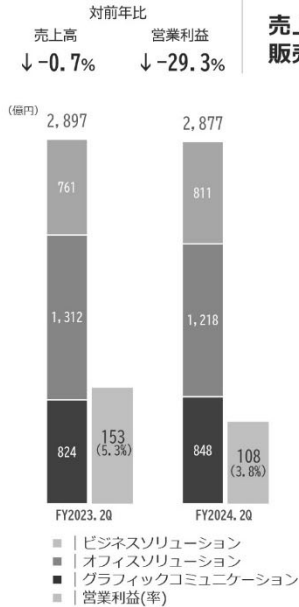
半導体材料の市況回復や、買収した半導体用プロセスケミカルの販売寄与に加え、AF材料におけるOLED向け材料の販売好調などにより、売上高は、前年比31.4%増の1,087億円。営業利益は増収に伴い、前年比94.2%増の195億円となりました。

半導体材料は、先端向け半導体が牽引する市況回復の影響に加えて、2023年10月に米国Entegris社から買収を完了した半導体用プロセスケミカル事業が寄与し、売上が大幅に増加しました。冒頭の決算トピックスでも後藤からお伝えしましたとおり、ネガ型EUVレジストとEUV現像液の販売を開始するとともに、国内外3拠点においてEUVを含む先端半導体材料の生産・開発強化のための、200億円以上の新たな投資を決定しました。

AF材料は、OLED向け反射防止材料の受注好調や、ファインケミカルで、試薬および市況回復傾向の重合材料などが販売好調で、大幅な増収となりました。

2025年3月期 第2四半期(2024年7月～2024年9月)

セグメント別概況：ビジネスイノベーション



売上高は、複合機の主要欧米OEM顧客による在庫調整や低採算の欧米向け小型プリンターの販売終了等により減収。営業利益は、粗利減やベトナム工場の台風被害等の影響により減益

ビジネスソリューション

売上高 **811** 億円

(対前年 +6.6%)

- DX関連ソリューションの販売が増加したこと等により、増収
- 10月にDXC Technology社のオセアニアにおける基幹システム販売・導入支援事業を買収完了。IT市場の拡大が見込まれる同地域における顧客基盤を獲得し「基幹ソリューション」領域の事業基盤をさらに強化
- 10月に富士フイルムRIPCORDERの完全子会社化を完了。当社の画像処理技術・AI技術やデータの利活用により、マーケットニーズに応じたきめ細やかなサービス展開を実現し、「業務ソリューション」領域における競合差別化をさらに推進

オフィスソリューション

売上高 **1,218** 億円

(対前年 -7.2%)

- 1Qに続き欧米向け消耗品の輸出が増加するも、複合機の主要欧米OEM顧客による在庫調整や欧米向け小型プリンターの低採算品種の販売終了等により、減収
- 10月よりデジタルカラー複合機「Apeos」シリーズを新たに米国、スペイン、フランスにて販売開始。それぞれ現地代理店の活用により、新たな市場における複合機の拡販を強化

グラフィックコミュニケーション

売上高 **848** 億円

(対前年 +2.8%)

- 欧米向けデジタルプリンターの販売増、セラミック市場向けのインクジェットヘッド販売増等により、増収
- 戦略商品と位置付ける、従来の上位機種同等の特殊色出力可能なコンパクトボディの新プロダクションプリンターの開発を推進

* グラフィックコミュニケーション事業を「エレクトロニクス(旧マテリアルズ)」セグメントから「ビジネスイノベーション」セグメントに組み替えて表示しています。本区分変更に合わせて、2024年3月期の情報をリスタートしています。

FUJIFILM Holdings Corporation 14

続いてビジネスイノベーションです。

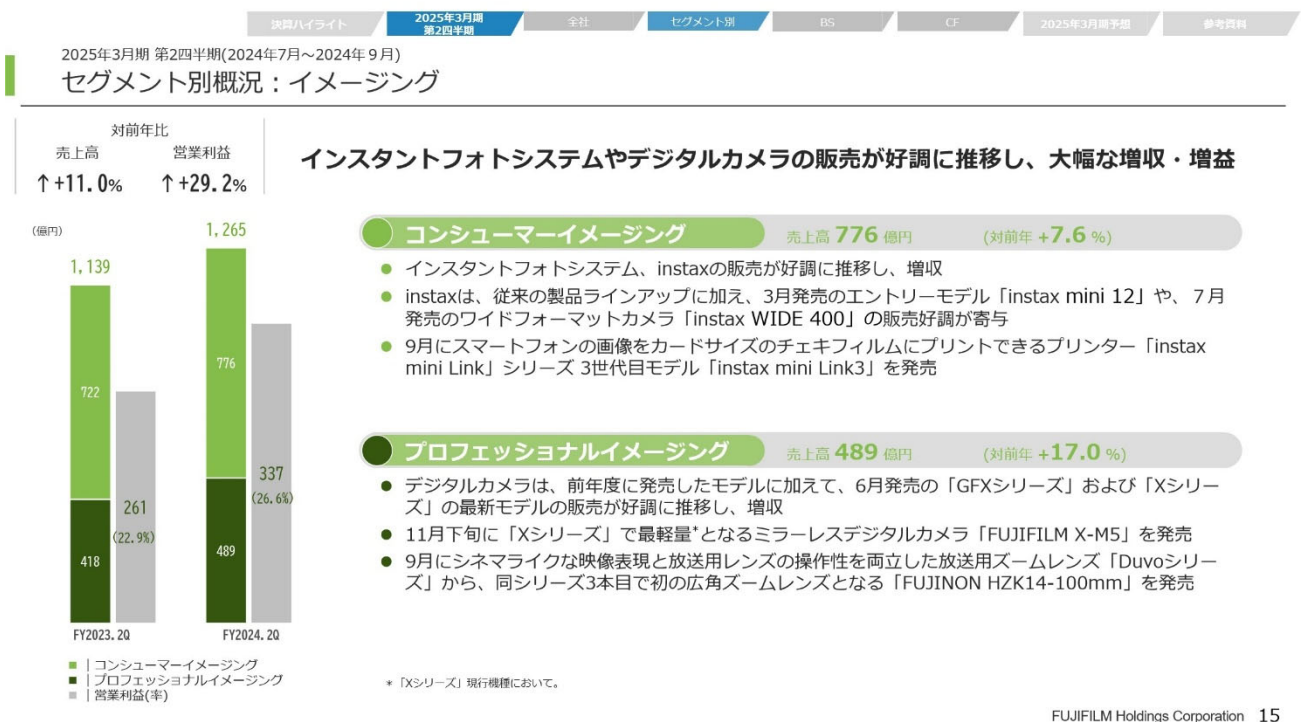
複合機の主要欧米OEM顧客による在庫調整や、低採算の欧米向け小型プリンター販売終了などの影響により、売上高は、前年比0.7%減の2,877億円と減収となりました。営業利益は、減収に伴う粗利減や、9月にベトナムを直撃した台風11号によるベトナム工場の被害影響などにより、前年比29.3%減の108億円となりました。

ビジネスソリューションは、DX関連ソリューションの販売が増加したことなどにより、売上が増加しました。10月には、DXC Technology社のオセアニアにおける基幹システム販売・導入支援事業を買収完了しました。IT市場の拡大が見込まれる同地域における顧客基盤の獲得により、基幹ソリューション領域の事業基盤を強化しています。また当社は富士フイルムRIPCORDERを完全子会社化しました。当社の画像処理技術・AI技術や、データの利活用により、マーケットニーズに応じたきめ細やかなサービス展開を実現し、業務ソリューション領域における差別化をさらに推進します。

オフィスソリューションは、第1四半期に続き、欧米向け消耗品の輸出が好調な一方、複合機の主要欧米OEM顧客による在庫調整や、欧米向け小型プリンターの低採算品種の販売終了などにより、減収となりました。10月には、デジタルカラー複合機Apeosシリーズを新たに米国、スペイ

ン、フランスにて販売開始しました。今後も新たな市場における複合機の拡大を強化してまいります。

グラフィックコミュニケーションは、欧米向けデジタルプリンターの販売増や、セラミック市場向けのインクジェットヘッド販売増などにより、増収となりました。さらなる成長を目指して、戦略商品と位置付ける、従来の上位機種同等の特殊色が出力可能なコンパクトボディの新プロダクションプリンターの開発を推進しています。



最後にイメージングです。

インスタントフォトシステムやデジタルカメラの販売が好調に推移し、売上高は、前年比 11%増の 1,265 億円。営業利益は、前年比 29.2%増の 337 億円と増収・増益となりました。

コンシューマーイメージングは、インスタントフォトシステム instax の販売好調などにより、増収となりました。instax は従来の製品ラインアップに加え、3月に発売した instax mini 12 や、7月に発売した instax WIDE 400 の販売好調が寄与しました。また9月には、スマートフォンの画像をカードサイズのチェキフィルムにプリントできるプリンター、instax mini Link シリーズの3世代目のモデルとなる instax mini Link 3 を発売し、こちらもご好評をいただいております。

プロフェッショナルイメージングは、デジタルカメラで、前年度に発売したモデルに加えて、6月発売の GFX シリーズおよび X シリーズの最新モデルの販売好調などにより、増収となりました。11月には、X シリーズ現行機種で最軽量となるミラーレスデジタルカメラ、FUJIFILM X-M5 を発売します。

2025年3月期 第2四半期
連結貸借対照表

(単位：億円)									
	2023年 3月期末	2024年 3月期末	2025年 3月期9月末	対2024年 3月期末		2023年 3月期末	2024年 3月期末	2025年 3月期9月末	対2024年 3月期末
現金及び現金同等物	2,686	1,797	1,871	74	長短社債及び借入金	3,762	5,028	6,198	1,169
受取債権	6,331	6,966	6,179	-787	支払債務	3,204	3,465	3,828	363
棚卸資産	5,673	5,478	5,760	282	その他流動・固定負債	6,498	7,608	7,305	-303
その他流動資産	1,621	1,505	1,601	96	負債計	13,464	16,101	17,331	1,229
流動資産計	16,311	15,746	15,411	-335	株主資本計	27,631	31,692	31,569	-124
有形固定資産	9,761	13,957	15,549	1,591	非支配持分	248	41	41	0
営業権	8,583	9,538	9,333	-206	純資産計	27,879	31,733	31,609	-124
その他固定資産	6,688	8,593	8,647	54	負債・純資産合計	41,343	47,835	48,940	1,105
固定資産計	25,032	32,088	33,529	1,441	(単位：円)				
資産合計	41,343	47,835	48,940	1,105	期末日 為替レート	2023年 3月期末	2024年 3月期末	2025年 3月期9月末	対2024年 3月期末
					米ドル	134	151	143	8円高
					ユーロ	146	163	159	4円高

FUJIFILM Holdings Corporation 16

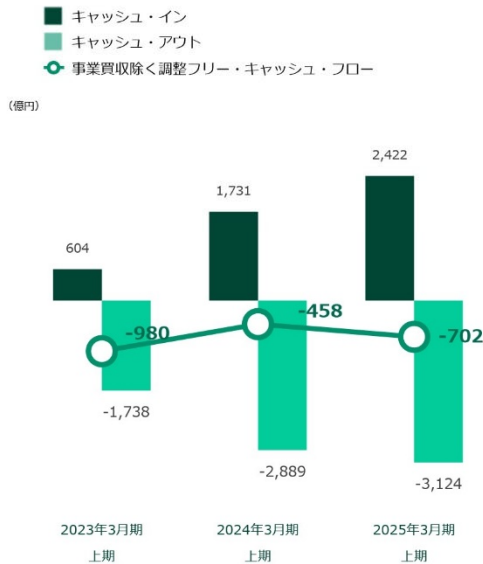
バランスシートについてご説明します。

2025年3月期9月末時点の資産合計は、有形固定資産の増加などにより、2024年3月期末時点に対し、1,105億円増の4兆8,940億円となりました。

負債は、1,229億円増の1兆7,331億円となりました。

株主資本は、124億円減の3兆1,569億円となりました。

2025年3月期 上期(2024年4月~2024年9月)
連結キャッシュ・フロー



(単位: 億円)

	2023年3月期 上期	2024年3月期 上期	2025年3月期 上期
当期純利益	966	1,127	1,108
減価償却費	708	718	782
営業債権等の増(-)減(+)	-151	306	1,025
棚卸資産の増(-)減(+)	-894	-159	-386
営業債務等の増(+)-減(-)	106	-106	434
運転資本の増(+)-減(-)	-939	41	1,073
その他	-131	-154	-540
キャッシュ・イン	604	1,731	2,422
設備投資(有形固定資産)	-1,133	-1,885	-2,713
設備投資(ソフト、レンタル資産他)	-450	-303	-411
事業の買収	-154	-700	-
キャッシュ・アウト	-1,738	-2,889	-3,124
調整フリー・キャッシュ・フロー(FCF)	-1,134	-1,158	-702
事業買収を除く調整FCF*	-980	-458	-702

*調整フリー・キャッシュ・フローから、事業買収を控除しています。

キャッシュ・フローについてです。

キャッシュ・インは、運転資本効率の改善などにより、前年より 691 億円増加し、2,422 億円となりました。キャッシュ・アウトは、バイオ CDMO を中心とする設備投資の増加などにより、前年より 235 億円増加し、3,124 億円となりました。この結果、事業買収を除く調整フリー・キャッシュ・フローは、702 億円の支出となりました。

2025 年 3 月期第 2 四半期決算の説明は以上です。

2025年3月期 通期連結業績予想

(単位：億円)

	2024年3月期	2025年3月期 前回予想 (2024/8/7公表値)	2025年3月期 今回予想 (2024/11/7)	対前年度	対前回予想
売上高	29,609 100%	31,500 100%	31,500 100%	1,891 +6.4%	-
営業利益	2,767 9.3%	3,150 10.0%	3,150 10.0%	383 +13.8%	-
税金等調整前当期純利益	3,173 10.7%	3,300 10.5%	3,250 10.3%	77 +2.4%	-50 -1.5%
当社株主帰属当期純利益	2,435 8.2%	2,500 7.9%	2,500 7.9%	65 +2.7%	-
EPS	202.29円	207.63円	*2 207.50円	+5.21円	-0.13円
ROE	8.2%	7.8%	7.8%	-0.4pt	-
ROIC	5.6%	5.4%	5.4%	-0.2pt	-
CCC	116日	115日	115日	-1日	-
為替 ^{*1}	：米ドル ：ユーロ	145円 157円	149円 163円	4円安 6円安	1円安 1円安
銀価格 (/kg)	109,000円	151,000円	148,000円	+39,000円	-3,000円

*1 | 為替レート： 3-4Q 米ドル=145円 | 対前回±0円, ユーロ=160円 | 対前回±0円
通期 米ドル=149円 | 対前回+1円, ユーロ=163円 | 対前回+1円

*2 | EPS(1株当たり当社株主帰属当期純利益)の算定上の基礎となる期中平均株式数については、2024年9月30日現在の発行株式数(自己株式数を除く)を使用しています。

FUJIFILM Holdings Corporation 19

続きまして、2025年3月期業績予想についてご説明申し上げます。

2025年3月期中期連結業績予想は、冒頭に後藤からお伝えしましたとおり、売上高は3兆1,500億円、営業利益は3,150億円、当社株主帰属当期純利益は2,500億円と、前回予想を据え置き、それぞれ過去最高の更新をめざします。

セグメント別業績予想

(単位：億円)

売上高	2024年3月期	2025年3月期 前回予想 (2024/8/7公表値)	2025年3月期 今回予想 (2024/11/7)	対前回予想		為替影響除く	
ヘルスケア	9,751	10,100	10,100	-	-	-35	-0.3%
エレクトロニクス	3,584	4,200	4,300	100	2.4%	85	2.0%
ビジネスイノベーション	11,578	12,100	11,900	-200	-1.7%	-220	-1.8%
イメージング	4,697	5,100	5,200	100	2.0%	80	1.6%
合計	29,609	31,500	31,500	-	-	-90	-0.3%

(単位：億円)

営業利益	2024年3月期	2025年3月期 前回予想 (2024/8/7公表値)	2025年3月期 今回予想 (2024/11/7)	対前回予想		為替影響除く	
ヘルスケア	974	1,000	1,000	-	-	-5	-0.5%
エレクトロニクス	463	720	740	20	2.8%	15	2.1%
ビジネスイノベーション	674	730	680	-50	-6.8%	-50	-6.8%
イメージング	1,020	1,120	1,150	30	2.7%	20	1.8%
全社/連結調整	-364	-420	-420	-	-	-	-
合計	2,767	3,150	3,150	-	-	-20	-0.6%

* グラフィックコミュニケーション事業を「エレクトロニクス(旧マテリアルズ)」セグメントから「ビジネスイノベーション」セグメントに組み替えて表示しています。また、それに伴いセグメント単位での一律調整が進んだ状態を鑑み、各セグメントの売上高及び営業利益をセグメント間取引消去後の金額に変更しております。本区分変更に合わせて、2024年3月期の情報をリスタートしています。

FUJIFILM Holdings Corporation 20

セグメント別業績予想はご覧のとおりです。

第2四半期の実績や足元の事業状況、今後の市場環境をかんがみて、セグメントごとの見直しを行います。全体としては売上高・営業利益ともに前回予想を据え置きます。

売上高は、業績好調なエレクトロニクスおよびイメージングでそれぞれ100億円上方修正する一方、主要欧米OEM顧客のセルスルーが低調であることなどを背景に、ビジネスイノベーションで200億円下方修正し、全体での変更はありません。

営業利益は、戦略商品の新プロダクションプリンターにかかる開発投資の増加や、米国向け刷版材料のアンチダンピング課税に伴う粗利減、主要欧米OEM顧客向け売上の減少などにより、ビジネスイノベーションを下方修正し、好調なエレクトロニクスとイメージングで上方修正、全体としては前回予想を据え置きます。

セグメント別売上高の修正の詳細は25、26ページをご参照ください。

私からの説明は以上です。

司会：当社からの説明は以上です。

質疑応答

司会 [M]：それでは質疑応答に移ります。

シティグループ証券の芝野さま、お願いいたします。

芝野 [Q]：シティグループ証券の芝野と申します。

1 点目、7-9 月期の実績について、ご解説いただければと思います。営業利益実績で 734 億円ということですが、連結ベースで 8 月時点の想定に対してのよしあし、またセグメントごとに強弱ございましたら、併せてお願いいたします。できたら数字も付けていただけると助かります。

樋口 [A]：当第 2 四半期の実績全体としては、売上、利益とも社内計画を過達してございます。

まず売上は、全社で計画に対して 5-60 億円の過達です。為替影響を除くと二桁億円前半の未達となっています。

セグメント別に行きますと、エレクトロニクスは、半導体材料事業で先端向け中心に半導体市況が回復、加えて AF 材料で OLED 向け材料が好調し、二桁億円後半の過達です。イメージングも、instax・デジタルカメラの販売が予想よりも良く、これも二桁億円半ばの過達です。ヘルスケアは、大体計画どおりです。ビジネスイノベーションは、計画に対して 50 億円以上の未達になっております。これはオフィスソリューションの複合機におきまして、欧米の主要 OEM 顧客先での在庫調整があったこと、それから中国等の建材向けのインクジェットヘッドの販売回復が、想定よりも遅れていることで、未達となりました。

利益も、全社としては二桁億円前半の過達です。為替影響除きでも過達です。

セグメント別には、売上に呼応しまして、エレクトロニクスとイメージングが、二桁億円前半の過達です。ヘルスケアは、メディカルで 2020 年に買収した日立の画像診断関連事業について、日本での最後の組織統合を今年 7 月にいたしましたのですけれども、システムプロセスの移行に若干の問題があり、販売が 3Q にずれ込んだ影響がございました。それから元々見込んでなかったのですけれども、統合に伴って会計処理基準を完全に統一したことで、ノンキャッシュですが、在庫評価の損失が若干出ています。それらによってヘルスケア合計 20 億円程度の未達になってございます。

ビジネスイノベーションも二桁億円の未達です。先ほど売上でもご説明した、欧米 OEM 顧客の在庫調整、それから先ほどプレゼンにもありました、プロダクションプリンターの戦略的新商品の開

発投資を、開発加速のために積み増していること、加えて若干ですが、ベトナム台風の影響がございました、未達となりました。

芝野 [Q]：2点目、だいたいは早いのですけれども、2025年3月期から2026年3月期にかけてのドライバーについて、現時点でのお考えを整理いただければと思います。特にイメージングの利益の継続性、あるいはさらに成長できるのか。結果的に少し落ち込んでいるビジネスイノベーションが、来期回復できるのか。また CDMO については、デンマーク稼働開始したことで、これが CDMO 事業として来期どの程度の増益に効いてくるのか。こういった点も含めまして、現時点での考え、ざっくりで結構ですのでいただければと思います。

後藤 [A]：基本的には、今中期計画で立てている方向性は変わりございません。

2025年3月期から2026年3月期にかけまして、利益を引っ張るのは、一つは半導体材料事業。需要はいろいろばらつきあると思うのですが、トータルで言えば伸びていく。その中でも当社が関わっている部分は、わりと勝ち組と付き合っているといえますか、それによって上がっていく。それと先般 Entegris 社から買収しましたプロセスケミカル事業、これが半導体の需要が伸びると一緒に製造量も増えて、販売コストを下げることができて、それが利益の好転につながっていくと考えております。

CDMO は、11月5日にデンマークの大型タンク、2万リッター6基が稼働を開始しました。今いろいろメガファーマと交渉しながら、徐々にテストから始めて、フル稼働するのがもうちょっと先になりますが、それで引っ張っていくのは、当初の計画どおりです。

イメージングは、instax、デジタルカメラを中心に伸ばしていきます。施策としては、今 instax では毎年2~3機種の新製品、プリンター等を出しておりますが、これをますます加速させる新たなものを作っていく。それとソフトウェア面で、プリンターとスマホの連動で新たな需要を起すところに開発を入れていきます。デジタルカメラは、今好調の現行機種がございますが、だいぶご迷惑かけておりました需給問題が、増産を重ねまして、いつ手に入るか分からない状態ではなくて、お客さまに渡せるめどが大体言えるような、そういう状況になってきました。引き続きこれを伸ばしています。

もう一つは、未来にかけていろいろな開発投資。これはデジカメと instax に限らず、ここから発生する動画、映画用のレンズ、テレビ用のレンズ、ここもマーケットとしてはスペースがまだ大きいと私は見ておりまして、そこに対する開発投資も行っていく。

もう一つは、マーケティング。これも未来を考えると、よりマーケティングの投資を行っているのではないかと考えております。と申しますのは、今、先進国で instax の販売が先行しております

が、ブームになりつつあるのは中国、インドです。まだそんなに行き渡ってない国は、世界にたくさんございます。そういうところでどうやって根づかせるかは、お金をかけてやるべきだということで、この半導体材料と CDMO とイメージングが、引っ張ると思います。

その後一つメディカルです。他社の情報を見ている、鈍ってきたイメージがします。私もこの上期を結構詳しく見てみました。一つは中国で腐敗防止運動の影響が出てきたのが、当社の感じです。と申しますのは、中国の上期が前年同期に比べて、為替除いたところで2%下がりました。これまでずっと伸びてきたところで初めて前年を割ったのが当期実績でございます。

そしてなぜ前年割れしたのか、中身を見ますと、これまでは内視鏡が、中国での製造も始めながら売上を伸ばしてきましたが、2Q は伸長したものの、上期で見ると横ばいぐらいまで落ちてきた。これまで、内視鏡以外で、中国の国産品と競合しているところは大きな伸びはなく、内視鏡がメディカル全体をカバーしてきたのが、内視鏡がなかなか思うように売れなくなったところがあり、状況がだいぶわれわれにとっても変わってきている感じはします。

もう一つは、日本国内です。これまでコロナ禍での補助金等がありましたが、今コロナが終わってふたを開けてみると、赤字決算の病院がかなり増えている話を聞いております。それが需要を冷え込ませている。われわれはまだ対前年を割っていませんが、今後ここは注視していかないといけないと思っています。

あと大きなところで言えば、ビジネスイノベーション。ここはヨーロッパやアメリカで、代理店を使いながら販売を開始しました。プリントボリューム、稼ぐところを世界で維持する施策です。

同時に一番やらないといけないのは、ソリューションの部分。IT を含めたソフトウェア、これをどれだけ積み上げられるか。オセアニアでいろいろと買収を行ってきまして、それがだいぶ成果が分かってきた、見えてきた感じです。先般オセアニア出張して確認してきましたが、これからまだ上に上がる絵が描けていて、その初歩の踏み出した段階にあるのは感じました。例えば台湾も、オフィス IT に関しまして当社は強いプレゼンスを持っていて、元々台湾は複合機のマーケットシェアが強い。そこに IT を早くからやっているところで、売上が伸びています。

だからビジネスイノベーションはソリューション部分を入れながら、どうやってオフィスのプリントボリュームが下がっていくところをカバーするのが、最大のポイントであると思います。

以上、2026年3月期に向けても、富士フイルムとしての絵の描き方はぶれてない、そのとおりにやっていきたいと思っております。

司会 [M]：続きまして JP モルガン証券の若尾さま、よろしくお願いたします。

若尾 [Q]：JP モルガンの若尾です。

私からまず、CDMO の欧州と米国の稼働開始のタイミングが計画どおりであって、御社の計画、今期来期以降の計画に影響はない。業績の見通しに関しては変わっていないか、まず確認させてください。

飯田 [A]：変わってございません。今年度のガイダンスおよび中期計画に織り込みました稼働のタイミングが、ここにご覧いただいているタイミングです。

若尾 [Q]：こちらの御社がおっしゃっている稼働開始の定義について教えてください。あとノースカロライナに関しては、2025 年の初めくらいから立ち上がるのかなと思ったのですが、これは何かずれていたりするのですか。業績にインパクトはないけれど、何かしらずれているところはないのですか。

飯田 [A]：最初のご質問、お客さまから代金をいただけるタイミングを稼働開始と定義しています。お客さまにチャージできるバッチは、最初に凍結細胞を解凍するところから始まります。そこから進行基準で収益を上げていきます。11 月第 1 週にその解凍が始まり、収益、売上の計上がスタートしました。

二つ目のノースカロライナ拠点立上げ時期については、プレゼンでは CY2025 後半と書いていますが、実際には夏場ぐらいをイメージしております。元々の計画から 1 カ月ぐらいの誤差はあると思いますけれども当初どおりの工事進捗です。私も現地に駐在しておりますけれども、工事は順調。今いまメカニカルコンプリーションといいまして、建屋設備のハードものの進捗で 9 割以上の進捗になっており、2025 年夏場に向けて、ほぼオンスケジュールで進んでいます。

若尾 [Q]：二つ目が、ヘルスケアの 7-9 月期の売上、サブセグメントごとに一言ずついただきたいです。メディカルシステムに関しては、為替除きで確かに弱くて、ご説明でも中国が弱いのと、あと日立の統合の影響が出たということですが、その影響で弱いのかを確認したい。バイオ CDMO は、対前四半期であんまり伸びてないように見えますけど、これは計画どおりでいいのか。LS ソリューションに関しては、先ほどご説明があったマイルストーンみたいなものが入っていて、よく見えると理解すればよろしいですか。

樋口 [A]：おっしゃっているのは前年度第 2 四半期との比較ですね。まずメディカルは、今まで成長ドライバーであった中国が横ばいになっていること、加えて先ほど申し上げた会社統合に伴って出荷がずれ込んだこともあって、為替を除くとほぼ横ばい、為替除くと若干減収です。それ以外の減収要因は特にありません。

バイオ CDMO は、テキサスの中小型の設備を商用生産の体制強化に向けて、稼働調整をしていますので、その影響があって去年よりも減収。

ライフサイエンスは、マイルストーン収入が2Qに入りました。および培地でお客さまの在庫調整の改善が進んでまいりまして、そのアップサイドもあり、プラスということです。

若尾 [Q]：メディカルシステムは、通期計画の達成という観点では、今の進捗はどう評価すればいいですか。

樋口 [A]：シーズナリティとして、もともと下期に寄る傾向がありますので、上期は中国の弱含みがありましたけれども、通年としては射程内だと思っています。先ほどの組織統合に関する影響は一過性で、3Qには戻ってまいりますので、そこは大丈夫だろうと思います。

後藤 [A]：付け加えますと、前年度第2四半期との比較ですと、原価が上がっておりまして、それに対して新製品を出したり、値上げをしたり、それらがちゃんとできているのかをもう1回見直しています。

それと FHC(株式会社日立製作所の画像診断関連事業を買収し、富士フィルムの100%子会社として発足した富士フィルムヘルスケア)との統合について、海外はもう完了し、国内を今年7月から始めたところです。このポイントは一番大きく利益を稼げるサービス契約の拡大です。これまで富士フィルムのサービス契約率は高く、機械を1台入れるとマンモグラフィーだと80%以上の契約率。それもスポット契約じゃない年間契約。ただ FHC を見てみますと、単発での契約になっているところがかかなり多くて、ここに利益を伸ばすスペースがあると考えております。これを、日本はもちろんですが世界レベルで、利益を稼ぐ源泉にしていくことを、今一生懸命やっております。

全体的に言えば、今期は目標がメディカルで6,900億円、ヘルスケア全体で1兆円を掲げておりますが、それに伴って利益の10%ぐらい出るようなかたちにしたいとは考えております。今後、為替やアメリカ情勢も含めて不透明な部分が多いですけど、色々、柔軟な施策を組み替えながら、目指していきたいと考えております。

若尾 [Q]：LSソリューションでのマイルストーンは、期初計画に入っていたと理解していいのですよね。

樋口 [A]：そうです。

司会 [M]：続きまして野村證券の岡崎さま、よろしく願いいたします。

岡崎 [Q]：野村證券の岡崎と申します。

ビジネスイノベーションについてお伺いしたいです。今回欧米向け OEM 向けが弱くて、売上が低調だったということですが、一方で自社での欧米向けの販売も始まっていると思います。この既存の OEM の落ちを自社の直販でカバーしていくことができるのは、いつごろの時期になると考えればいいでしょうか。あと今回アメリカ向け、正式に始まっています。これに伴う費用増については、どのように考えればいいでしょうか。

浜 [A] : 欧米向け OEM は、主要顧客の苦しい状況から、販売が落ちている実態があります。われわれも今そういう点で、欧米向けの自社販売を開始しているのですが、急に伸びるわけではなく、少しタイムラグがありますので、そこをどうしのいでいくかが一つポイントになると思います。

費用に関しては、直販で販売体制を敷いて欧米で売るのではなくて、いわゆる代理店に売っていただく、元々売っていたシステムの中に入れていただくので、そこについて大きな費用増加にはならないです。直接自分たちがサポートするサービス網は持たなきゃいけないのですが、お客さまに対してのサービスは代理店にやっていただくので、そこに対しての投資はかかりません。それほど大きな投資をせずにやることを、基本的な考え方として進めております。

岡崎 [Q] : そうすると、OEM 先はまだ縮小傾向モードが続いていると思いますので、例えば来年度に向けては、まだ OEM の減少が影響してしまって、自社販売ではなかなかカバーできないと見るべきでしょうか。

浜 [A] : 2Q に起こっていることだけ見ると一時的なものです。将来的なことを言いますと、アメリカについては、かなり回復できると見ているのですが、欧州向けが、この後どうなるのかが非常に不透明なので、そこは逆に現状の OEM 先でない部分、直接富士フイルムブランドで売る部分を増やしていくことを加速しないといけないということで、そこに危機感を持って進めている状況です。

司会 [M] : 続きまして UBS 証券の葭原さま、よろしくお願ひいたします。

葭原 [Q] : UBS 証券、葭原です。

バイオ CDMO の事業の状況についてお伺いをさせていただきます。中小型製造設備が減収ということですが、これはあくまでもテキサスの転換の話であって、市況全体として厳しい状況とまではいかない理解で正しいでしょうか。一部大手の製薬会社が、研究開発投資を絞っているような話もあるようなので、その点お聞かせいただけたらと思います。おそらく大型製造設備については非常に全体的に順調だと思うのですが、中小型が若干心配な状況がある。

それを踏まえて来期 2025 年度、このバイオ CDMO の事業としては、マージンが少し下がる前提に中計でなっていたと思います。中小型製造設備の回復が遅れることで、マージンの下がり方が厳しくなるようなリスクは、現時点でどのように考えておけばよいでしょうか。

飯田 [A]：まず中小型製造設備が、前年度第 2 四半期と比較して下がっているのですけれども、大部分は、先ほど樋口からもご説明させていただきましたテキサスの影響です。テキサスを除けばイギリスのサイト、アメリカのサイト含めて、特にアーリーの抗体薬の需要が順調ですので、テキサス除けば、中小型製造設備は売上増収という状況です。

テキサスは、昨年度 2Q はフルで生産をしておりましたが、今年度 2Q は 7 月 20 日ぐらいまで一時停機していたため、7 月の 3 週分ぐらいが 2Q の売上に寄与していない。現在はもう稼働再開していますけれども、フルスイングではなく、品質を担保しながら慎重に稼働しています。このテキサス影響が、中小型製造設備で、売上が減収となった要因です。ただ、全体としましては、アーリーの抗体薬を中心に順調です。

抗体薬以外の CGT（細胞・遺伝子治療薬）は、まだファンドが戻りきっておらず、横ばいぐらいと見ておりますけれども、この CGT は依然どちらかという向かい風が吹いている段階です。

2025 年度に向けては、大型製造設備は、今回デンマークの 1 次投資が稼働し、9 つのプログラムが今入っており、これをきっちり立ち上げて稼働させる。それからノースカロライナは、来年夏場ぐらいから稼働開始し、Johnson & Johnson グループの Janssen Supply Group との契約も決まっております。これが来年度後半から効いてくることで、大型製造設備につきましては、ほぼ中期計画の目線に合ってくると見ております。

中小型製造設備も、抗体薬が順調ですので、テキサスのある一定のスピードの稼働ができる商業生産の体制を整えていけば、抗体薬の部分は大丈夫かと思っております。少しアンノウンなところとしては、CGT の市況をよくウォッチしていく必要がある、というのが全体感です。

司会 [M]：現在も複数の方に挙手いただいておりますけれども、大変恐縮ながら終了時間を過ぎておりますので、質疑応答は以上とさせていただきます。

最後に当社より二つお知らせがございます。まず一つ目は、日本時間 12 月 10 日の午前 9 時半より、半導体材料事業説明会を開催いたします。本日出席しております岩崎より、当社半導体材料事業の優位性、また成長戦略をご説明いたします。

そして二つ目は、統合報告書発行のお知らせです。今年度の統合報告書では、イノベーションで価値を創造し続ける富士フイルムグループが、社会にどのようなインパクトをもたらさうかという

観点を軸としながら、グループパーパス「地球上の笑顔の回数を増やしていく。」の実現に向けた道筋を紹介しております。主なコンテンツはご覧のとおりですので、また日本語、英語ともホームページに掲載しておりますので、ぜひご一読いただければと存じます。当社の価値創造の取組みを、より深くご理解いただく一助となれば幸いと考えております。

以上をもちまして、富士フイルムホールディングス決算説明会を終了いたします。本日はご参加いただき誠にありがとうございました。

[了]

脚注

1. 会話は[Q]は質問、[A]は回答、[M]はそのどちらでもない場合を示す